



*卯月4月 (LE MOIS D' AVRIL)



鎌倉に住む友人からの便りに「自然は春の笑顔、4月は花咲ける月です。」とありましたが、綺麗な表現で気に入りました。「卯の花の匂う垣根に、、、」卯の花の咲く月、確かにキリストの復活祭 (les Pâques)、お釈迦様の花祭りで明けた4月は陽光も明るく暖かく、次々に花が咲いて華やかな季節です。3、4年前迄は、私が利用する郊外電車 RER-B 線のロバンソン (Robinson) 駅から丁度三つ目、ブル・ラ・レーヌ (Bourg-la-Reine) 駅のホーム脇の土手に、小さなプリマ・ベーラが2、3株、可愛らしい花をつけているのを見つけて“春が来た”と喜んだのですが、それが種子が電車に乗って散らばり広がったのでしょう、毎春線路際の土手や草むらに次第に増えて、今年は何と我がロバンソンの駅の土手にまで沢山の花が咲いて嬉しい驚きでした。そういえば小学生の頃、港に着いた荷物が汽車で運ばれ、その荷物に付いて来た種子が線路際に散って広がり、根を生やした草木を「鉄道草」と云う、と、習ったことを懐かしく思い出しました。日本の桜は早くも散ってしまったのですが、此処では桜ん坊が実る白い花の桜、色濃く大きな八重桜も咲き出しましたから、この週末に近くのソー公園 (Parc de Sceaux) では家族連れで、大学の同窓会、日本人会など、恒例の「お花見」の宴が広げられることでしょう。朝市を覗きますと、大粒で形よく、値段も手頃なスペイン産の苺 (la fraise)、やや小粒でも甘く香り良く真っ赤な、値段もスペイン産のもの2倍はする南仏産のガリゲット (Fraises Gariguettes) 苺が山のように売られていて、つい一粒摘んでみたい衝動に駆られます。グリーン・アスパラ (l'asperge verte) に続いて白くて太い白アスパラガス (l'asperge blanche 又は l'asperge violette) も出始めました。これから美味しい季節を迎えます。

* 「情熱の要」展 (Expo.LES CLEFS D'UNE PASSION)



昨年 10 月に開館、小信 108 号でご紹介したルイ・ヴィトン財団 (la Fondation Louis Vuitton) の建物は、ビルバオのグゲンハイム美術館などを手掛けた現代建築の大家フランク・ゲリー (Frank Gehry) の設計で、建物自体が現代アート作品と云えますが、ブローニュの森に忽然と姿を現した“ガラスの帆を立てた巨大な船”の様な何とも表現し難いデザインは、実はパリ市の紋章“セーヌ河に浮かぶ帆かけ舟”(“たゆたえども沈まず”(Fluctuat nec mergitur) (どんなに強い雨風や荒波にも沈むことは無い))を意図

したものであることを後で知りました。その会館で 20 世紀の芸術の歴史を物語る芸術家達の代表的な作品 60 点余りを世界中の美術館から借り出して集め、一堂に展示しています。マチス (Henri Matisse (1869-1954)) の 2,60x3,91m もの大きな絵画「ダンス」(La danse (1910))、今や彫刻では史上最高値 (2010 年に 7500 万ユーロ) となったジャコメッティ (Alberto Giacometti (1901-1966)) の「歩く男」(l'Homme qui marche 1 (1960))、アメリカの実業家エドウィン・R・キャンベルの依頼でカンディンスキー (Vassily Kandinsky (1866-1944)) が描いた色の鮮やかな 4 枚のパネルの中の 1 枚 (Panel for Edwin R. Campbell - No. 4 (1914))、レジエ (Fernand Léger (1881-1955)) がサロンでお茶を飲む 3 人の女性を描いた「三人の女」(les Trois femmes (1922))、そして中でも呼び物はムンク (Edvard Munch (1863-1944)) の「叫び」(le Cri (1893)) で、苦痛にゆがむ口、こめかみに当てた手、絶望の表情 (la bouche tordue de douleur, les mains sur les tempes, l' image du désespoir)、、、これらは正に 20 世紀を代表する作品と云えます。その他ピカソ、ボナール、ブランクジ、モンドリアン、デローネイ、モネ、ピカビア、セヴェリーニ、、、大作ばかりが鑑賞できる絶好のチャンスと云えるでしょう。2015 年 7 月 6 日迄 Fondation Louis Vuitton (8, Avenue du Mahatma-Gandhi, Bois de Boulogne, Paris 16e) 火曜日を除く毎日、水、木曜 10 時—20 時、金曜 10 時—23 時、土、日曜 11 時—20 時、入場料 14 ユーロ www.fondationlouisvuitton.fr

* パリー番のバゲット (LA MEILLEURE BAGUETTE DE PARIS)

今年のバゲット・コンクールはパリ市内 231 人のパン職人が参加して行なわれ、形、大きさ、重さ、皮は厚めでパリッとした焼き具合、色、香り、そして最後に味、等々を市役所、パン組合、消費者代表、過去の優勝者、等々 15 人の審査員が慎重に厳しく審査した結果、113 人 113 本のバゲットが不合格となり、118 本が合格、その中から 1 人だけが最優秀者に選ばれ「バゲット 2015 年」のタイトルが贈られま



した。今回選ばれたのはパリ 18 区でパン屋を営むジブリ・ボディアンさんで、アフリカのセネガル出身の 38 才、2011 年に続いて 2 度目の名誉あるタイトルを獲得しました。見習いとして仕事を始めてから今年で 17 年、今ではモンマルトルのパン屋《le Grenier à pain》の主人として、毎日朝は 2 時から仕事に掛っているそうです。5 月からは 1 年間、大統領官邸のエリゼ宮へパンを届ける名誉ある慣わしになっていますが、2011 年に優勝した時のサルコジ大統領からは挨拶も無く、昨年の優勝者にはオランド大統領自らシャムパンを抜いて祝ってくれたそうなので、今年は自分もその榮譽に与りたいと願っているそうです。(le Grenier à pain : Rue des Abbesses, Paris 18e) *ついでに、同じモンマルトルの Abbesses 界隈にあるカフェ《Lux Bar》(12, Rue Lepic 18e) はビールを飲ませる優良カフェとして選ばれ、店構え、テラスも“パリの下町”の装い、中に入れば“ベル・エポック”のフレスコ画で、パリのビストロ、といった伝統的な雰囲気に満ち、勿論コーヒーも一品料理も美味しく、サービスはやや粗いが下町的です。

*メトロ“春の工事”(ご注意)(TRAVAUX DE PRINTEMPS SUR LE RESEAU METRO)

パリ市交通営団 (RATP) によれば、路線、場所により老朽化が目立ち、或いは近代化を図って便宜に供する為、下記の通り各線ごとの工事予定を発表しました。ご利用にはご注意ください。



— 1 号線 Nation / Château de Vincennes 間 5 月 22 日から 25 日迄 軌道工事の為運休。メトロの時間割通りに代替バス運行。

— 2 号線 Stalingrad 駅 6 月 15 日から 8 月 28 日迄 駅舎改修工事の為閉鎖。

— 3 号線 Parmentier 駅 6 月 10 日迄 駅舎改修工事の為閉鎖。

— 5 号線 Bastille / Place d' Italie 間 4 月 18 日—19 日 運行設備工事の為運休 メトロの時間割通りに代替バス運行

— 5 号線 Bobigny / Eglise de Pantin 間 5 月 30 日—31 日 運行設備工事の為運休。代替バス運行。

— 6 号線 Dugommier 駅 4 月 24 日迄 駅舎改造の為閉鎖。

— 6 号線 Corvisart 駅 6 月 15 日から 8 月 28 日迄 駅舎改造の為 閉鎖。

— 6 号線 Nation / Daumesnil 間 5 月 7 日から 10 日迄 軌道工事の為運休

— 12 号線 Concorde 駅 4 月 20 日から 7 月 10 日迄 駅舎改造の為閉鎖。

— 14 号線 Saint Lazare / châtelet 間 6 月 14 日 1 日改修工事の為運休

— RER・B 線 Aulnay sous Bois / CDG 間 23 時以降運休あり。

2015 年 4 月 14 日 Saint Maxime 日の出 07 時 02・日の入 20 時 40 天気：パリ朝夕 11℃/日中 25℃晴天、ニース：11/17℃晴天、ストラスブール：6/22℃晴天、l' été prend de l' avance : 早くも夏の到来？ボルドー、リモージュ、リヨン、、、各地の気温が 25℃を超えています。(菅)